

平成24年度

湊まち新潟歴史ウォーク実施報告書

湊まち新潟歴史ウォーク実行委員会

平成25年3月

## 【概要】

湊まち新潟歴史ウォークは、2019年に開港150周年を迎える新潟港の未来像について、これまでの湊まち新潟の歴史を学ぶことを通じて、多くの市民の皆さんに新潟港の歴史について考えていただくことを目的に、平成20年から開催しており、平成22年から「新潟市地域活動補助金」の交付を受け実施しています。

実施は、みなとに関連するNPO法人3団体と市民の皆さんで構成する実行委員会「湊まち新潟歴史ウォーク実行委員会」を組織して、開催しております。

## 【実施内容】

### ■第1回 「湊まち新潟の歴史概説」 5月26日（土）

参加者30名

○みなとぴあで概説「湊まち新潟の歴史」について、副館長より講義を受ける

- ・みなとまち新潟の歴史を理解するにあたってポイントなど

○ボランティアガイド5名の案内で各班に分かれ、館内常設展示等を見ながら新潟みなとの歴史について、説明を受ける

- ・戦国期新潟をめぐる攻防
- ・新潟町と沼垂町の争い
- ・開港場としての新潟

○ みなとぴあ見学終了後、朱鷺メッセ31階展望室まで港を眺めながら柳都大橋経由でウォークし、展望室から港や町並み、佐渡、粟島を眺望しながら新潟港湾・空港整備事務所職員から港の説明を受ける



みなとぴあでの講義の様子



ウォークの様子

■第2回 「大型浚渫兼油回収船とみなとトンネル」 6月23日(土)

参加者34名

○白山乗組員の案内で大型浚渫兼油回収船「白山」の船内見学

○入船みなとタワー展望室で港を眺め、入船みなとタワー管制室でトンネルの安全管理について説明を受ける

○みなとトンネルを歩いて山の下タワー展望室より新潟西港を見学後解散し、希望者で山の下市場を歩いて大山台公園まで歩く



白山船員より説明を受ける



みなとタワー展望室

■第3回 「新潟湊の下町散策」 7月21日(土)

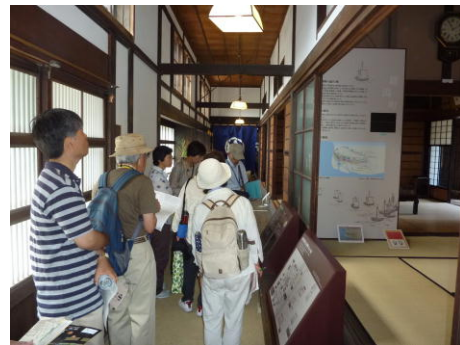
参加者30名

○みなとぴあを起点にして新潟シティガイドの案内で5グループに分かれて湊にまつわる下町の名所、旧跡を散策

- ・湊稲荷神社の回る「願掛け高麗犬」
- ・浅草観音堂
- ・金刀比羅神社の「難船彫刻絵馬」
- ・「北前船の時代館」としての旧小澤家住宅
- ・村上藩主が造営した総檜作りの本堂がある長音寺
- ・金刀比羅神社の「奉納和船模型」の見学



奉納和船模型



旧小澤家住宅

■第4回 「水運で活用されている水路散策」 8月25日(土)

参加者30名

○通船川の津島屋閘門から山の下閘門までを漁船に乗船(午前2回に分け)して探索

- ・阿賀野川本流であった通船川が新潟湊と新発田を繋ぐ舟運の川として活躍してきた歴史と、現在も流域の水上交通路として木材関連の運搬保管に利用されていることなどの説明を受ける
- ・閘門の仕組みや必要性について説明を受ける



山の下閘門前



通船川 津島屋閘門前

■第5回 「新潟湊の経済を支えた建物探訪」 9月22日(土)

参加者31名

○西大畑公園からスタートし、新潟シティガイド5名の案内で新潟湊の経済を支えた歴史的建物等を探訪

- ・地獄極楽小路、旧齋藤家別邸、新潟カトリック教会、どっぺり坂、安吾風の館(旧市長公舎)、砂丘館(旧日銀支店長宅)、ドン山を探訪



安吾風の館(旧市長公舎)



旧齋藤家別邸

■第6回 「沼垂湊のまち散策」 10月20日（土）

参加者27名

○東地区総合庁舎をスタートし、新潟シティガイドの案内で沼垂湊と発酵の町散策

- ・沼垂定住三百年記念碑、小唄勝太郎の碑
- ・法光院、悉地院、真善寺
- ・乙子神社、沼垂白山神社、蒲原神社
- ・今代司酒造の酒蔵見学



難破絵馬（乙子神社）



蒲原神社

■第7回 「開港150年の湊まち新潟」 11月17日（土）

参加者21名

○朱鷺メッセ31階展望室において、記念講演、意見交換会及び終了式を行う

- ・「湊まちとしての新潟ーその歴史と特質ー」をテーマに、新潟市歴史博物館副館長伊東祐之氏から記念講演を受ける
- ・湊まち新潟歴史ウォークの参加者全員に、参加証書の授与
- ・NPO法人にいがた湊あねさま倶楽部小島富美子代表をコーディネーターに、開港港150年の「湊まち新潟」へ向けた夢と希望を語り合っていたかく、意見交換会を実施した



参加証書の授与



記念撮影

## 【まとめ】

### 1. 参加状況

全7回の出席状況は、第2回の34名を最高に平均29名の参加があった。

### 2. 湊まち新潟に対する参加者の意見

#### (1) アンケートの意見要旨

#### ◇参加者からの生の意見

#### ① 新潟歴史ウォークに参加されて、「湊まち新潟」の良い点、気づいた点

- ・現在の町が完成する迄、水害による先人達の苦労等を知り、参加してこそ得られる知識となった。
- ・「新潟は見るところがなくで・・・」なんてよく聞きますが、ウォークに参加して実際に新潟の歴史に触れてみて、それは知らないだけだということがよく分かりました。改めて湊町にいがたを誇りに思えた。
- ・「沼垂湊のまち散策」がとても印象に残りました。どちらかというとな新潟西港の歴史は、入船側から眺められたものですが、沼垂から取り上げられた今回のウォークで、認識を新たにしました。
- ・新潟島は、江戸時代から比較的そのままの静寂を保った下町と、一方、賑わいの新しい都市軸が混在する貴重な街の財産を感じた。
- ・新潟の町中には知らない場所がいっぱいある。
- ・初めて見たり、聞いたりする事が多く、有意義でした。  
下町文化、寺町文化（沼垂）に出合った事でした。  
浚渫船「白山」の働きにはビックリ。
- ・コース図もわかりやすく、シティガイドの話もわかりやすかった。
- ・今回の参加で、浚渫船「白山」、入船タワー管制室、山の下閘門排水機場見学、普段体験できない所がとても良かった。  
シティ・ガイド付での説明も見落とししていた点など再認識した事がありました。
- ・新潟市で育ちながら、見過ごしている歴史的あるいは文化的に貴重なものがこの市には数多くあることを教えていただき感謝している。

## ② ウォークに参加されて「湊まち新潟」の気になった改良すべき点

- ・「湊まち新潟」の散策コースが、（案内図）がもっと多くわかりやすく、街中の通りに標示されてあればよい。現在でもあるが、不足。
- ・寺院等の歴史、宝物を含め、案内板・看板が少ない様に思える。
- ・沼垂の阿賀野川、信濃川との苦闘の歴史を学び、湊まち新潟と共に沼垂もその歴史遺産を活用PRしたら良いと思います。
- ・初めて知ったことが多かった。逆に言えばPR不足ではないか。

## ③ 「湊まち新潟」の今後の希望・期待する点

- ・「湊まち新潟」の資料（絵図や模型、民具、写真その他古文書など）を一室に集めた資料館があればと夢みている。
- ・日本海のエネルギー資源が再び脚光を浴びはじめました。メタルハイブリートや石油、天然ガス等エネルギー資源の開発の拠点として研究施設・物流の中心になればと期待します。
- ・水上バスもありますが、通船川を通過して、阿賀野川から信濃川へと歴史博物館や朱鷺メッセ、県庁、西川水門等を眺めながら、いくつもの橋や信濃川水門をくぐって、ふるさと村迄行くコースが出来ると、水辺から又違った目で新潟の街を知ることができるような気がします。
- ・近代発展（湊町としての）の足跡の更なる発掘。  
「湊まち新潟」の市民への更なる浸透。  
（小学生から副読本で学ぶようにしたらどうか。）

## ④ その他のご意見

- ・新潟市内にこんなに見所が沢山あった！！と改めて感心したりで、毎回ワクワク、ドキドキしながらのウォークでした。
- ・私は長年新潟に住んでいながら、知らなかったことが多くありました。今回は温故知新のウォークでした。いろいろと教えていただき、楽しく過ごすことができました。
- ・「花街」「食」文化等を含め「湊まち新潟」を県内外に積極的に発信してほしい。
- ・この湊まち新潟ウォークの体験、新潟湊の歴史を地元の小学生にも学んでいただきたいと思います。  
また、他所から新潟へ来て学んでいる大学生、短大生、専門学校の生徒さ

ん達にも楽しく学んでもらって身近に新潟を感じてもらおうツアーも良いかなと考えます。

## (2) 意見交換会での意見要旨

NPO 法人にいがた湊あねさま倶楽部小島富美子代表より、参加者アンケートを受けて、5年目となる湊ウォークから、開港150年の2019年に向けた提案をひとつでも出来ないかと進められ

- ① 西港、東港の機能や重要性をもっとPRすべき。
- ② 港の近代の歴史も学べる機会を。
- ③ 副読本を作成して、小学校からの教育に取り入れては。

以上、気づいたことが取りまとめられた。

## 【最後に】

今年度の参加者は、募集定員40名に対して、79名の参加応募をいただき、抽選により40名の参加登録でウォークを開始しました。

今年で5年目を迎え、回数を重ねる毎に湊まち新潟に対する参加者の熱い思いが伝わってきます。

この思いを、新潟港に関与される国、県、市を初めとする行政機関へ伝えるとともに、開港150年まで引き続き開催したいと考えています。